

新校舎建設 (2026年度完成予定)

新校舎建設計画

1F ステッププラザ・学生食堂

学内での発表やイベントで利用できる多目的エリア「ステッププラザ」を設け、キャンパスの中心となる場所を作り、地域との交流を促進します。

3F コラボレーションフロア

コース専門教育を行う実験室のほか、PBL型教育を行うワークショップ・アトリエやCG演習室を設けます。

2F 学生ラウンジ・大教室

既存校舎とブリッジで繋ぎ、その導線となるエリアに学生ラウンジをオープンし、学生同士の交流を促進します。大勢の学生が講義を受けられる大教室も設けます。

4-6F 研究・実験フロア

研究フロアとして、研究室、実験室や、研究室間の創発を促進するオープンラボなどを整備します。



新学部設置概要

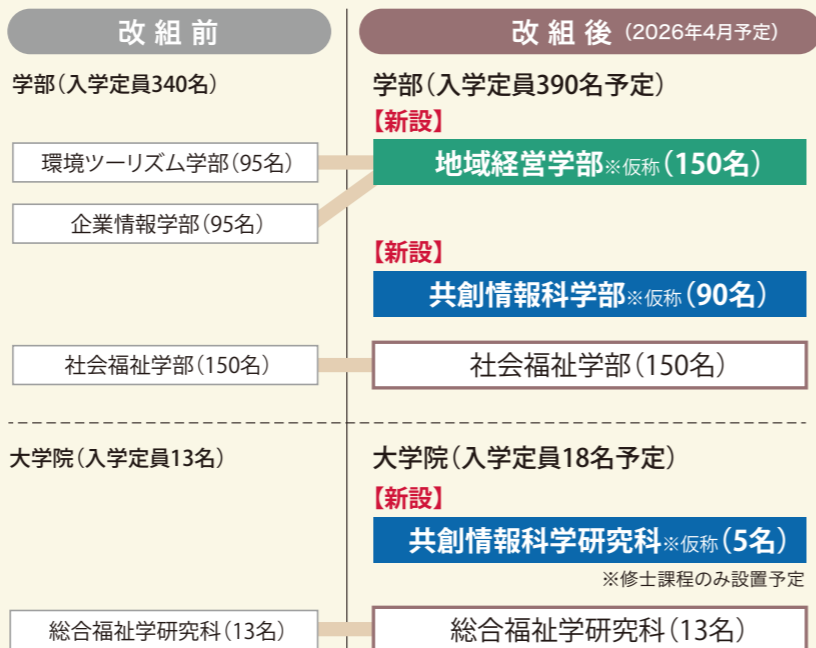
名称(仮称)	入学定員(予定)
共創情報科学部 共創情報科学科	90名 (収容定員:360名)
地域経営学部 地域経営学科	150名 (収容定員:600名)

学生納付金

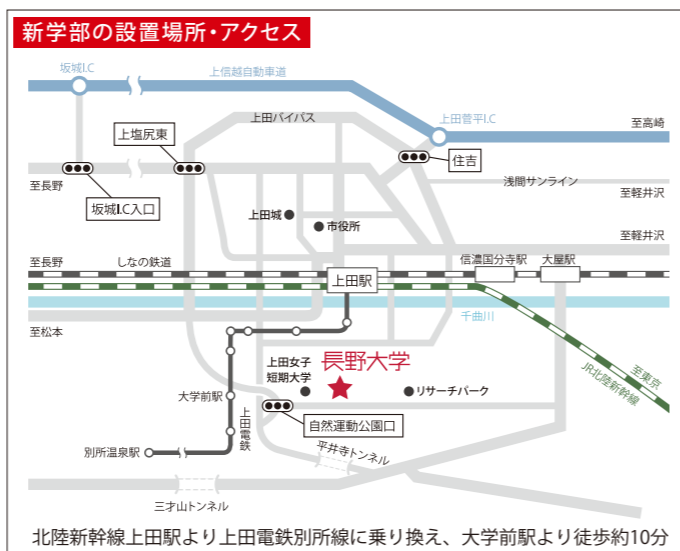
入学金	上田地域定住自立圏域内者	282,000円
	上田地域定住自立圏域外者	423,000円
授業料		580,000円
教育充実費		60,000円
初年度納入金	上田地域定住自立圏域内者	922,000円
	上田地域定住自立圏域外者	1,063,000円

※上田地域定住自立圏とは、上田市、東御市、青木村、長和町、坂城町、立科町、嬭恋村を指します。

新学部設置(構想中)



※令和6年9月時点での構想であるため、変更となる場合があります。



〒386-1298 長野県上田市下之郷658-1
tel.0268-39-0020 (教育グループ 広報入試担当)

www.nagano.ac.jp



長野大学共創情報科学部(仮称)、地域経営学部(仮称)、及び、大学院共創情報科学研究科(仮称)の設置については、設置構想中であるため、本リーフレットの内容は、今後変更となることがあります。

新学部設置

共創情報科学部
(仮称)

新学部設置に向けて、中核研究拠点となる新しいキャンパスを建設しています。

地域経営学部
(仮称)

2026年4月 開設予定
(設置構想中)



新校舎のイメージ

設置構想中であるため記載内容を変更する可能性があります



共創情報科学部 共創情報科学科 (仮称)

設置の理念 「情報科学を基盤に人と自然が調和する社会を創る」

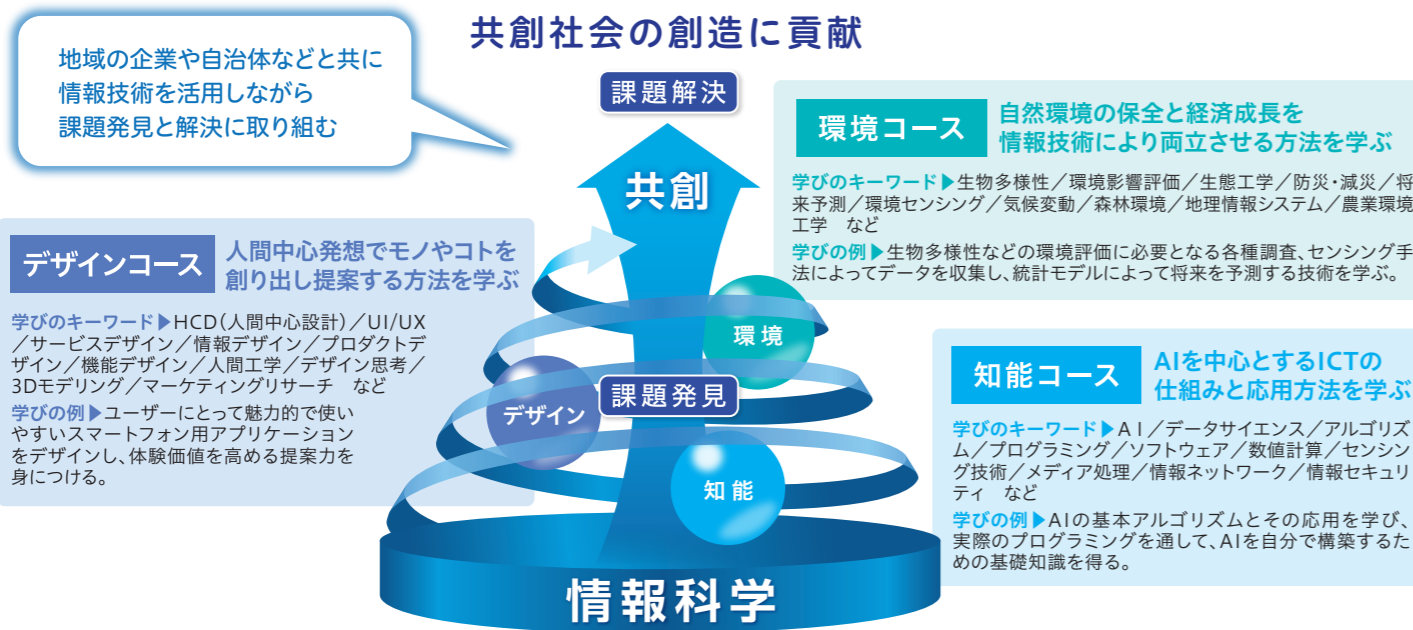
これからの時代に求められるのは、人と人、人と自然、そして人とテクノロジーが共に新しい価値の創造を担うことである。とらえ、そのような未来社会を私たちは「共創社会」と位置付けます。その構築のために、共創情報科学部では、全ての学生が情報科学の知識を身につけるとともに、変化のめざましい人工知能(AI)やロボットなどの高度な知能システムを適切に応用できる人材、新しいモノやコト、そして社会をデザインできる人材、自然環境の保全と経済成長の両立の推進に貢献できる人材の育成をめざします。



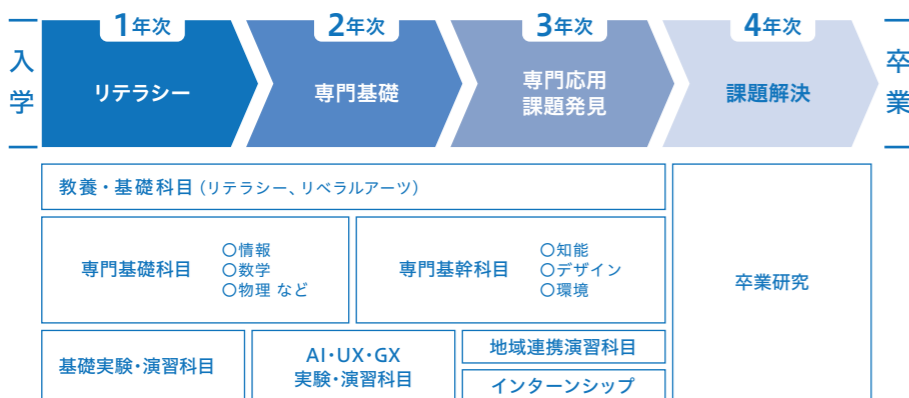
養成する人材像 「共創社会の創造と実現に貢献できる理工系人材」の養成

共創情報科学部では、情報科学を基盤とし、知能、デザイン、環境を横断的に学ぶことにより、人と自然環境が調和した共創社会の創造と実現に貢献できる理工系人材を養成します。

学びの特徴 「情報科学を基盤とした3つのコースを横断的に学び、多様な視点を育む」



カリキュラム体系



※UX(ユーザーエクスペリエンス)=ユーザーが商品やサービスを通して得られる体験
※GX(グリーントランスフォーメーション)=地球温暖化に対応した社会変革と経済活動

卒業後の進路

情報技術の専門家は幅広い地域や企業から求められています。情報・通信業界はもちろん、情報技術を活用する様々な業界(製造、建設、小売・物流、医療、農業、金融、観光など)での活躍が期待されます。

【例】システムエンジニア/ネットワークエンジニア/UI/UXデザイナー/デザインエンジニア/環境コンサルタント/環境アセスメント職/研究開発職/公務員など

地域経営学部 地域経営学科 (仮称)

設置の理念 「地域や企業の課題をイノベーションにより解決する」

豊かさや経済性を追求する社会から持続可能な社会への転換が期待されています。この社会を実現するためには、地域を構成する関係者が集まり、未来を考えながら地域や企業の課題をイノベーションにより解決することが不可欠です。長野大学には、現在3つの学部があり、そのうち環境ツーリズム学部と企業情報学部の2学部を再編して地域経営学部の設置を構想しています。地域経営学部では、社会学を基盤とした環境ツーリズム学部のサステナビリティという軸と、経営学を基盤とした企業情報学部のイノベーションという軸を融合させることで、「サステナブルな地域社会の実現に向けて新たな価値を創造できる人材の育成」をめざします。



養成する人材像 「サステナブルな地域社会の実現に向けて新たな価値を創造できる人材」の養成

地域経営学部では、地域や企業の課題を解決するための戦略を立て、実践し、新しい価値を創造する(イノベーションを起こす)ことを通して、持続可能(サステナブル)な地域社会の実現に貢献できる人材を養成します。

経営イノベーションコース サステナブルな地域社会の実現(地域経営)に向けて、地域企業の技術や資源を生かした経営や事業、商品のイノベーションを推進できる人

地域サステナビリティコース サステナブルな地域社会の実現(地域経営)に向けて、地域の資源や自然環境を生かした地域づくりや観光まちづくりを推進できる人



学びの特徴 「イノベーション×サステナビリティをもとにした地域協働による価値創造の学び」

地域の「課題発見から価値創造」につながる循環的な学び
地域社会や企業の「課題発見」から、「戦略立案」・「事業実践」・「価値創造」までのサイクルをゼミナール教育を中心とするカリキュラムを通して循環的に学び、サステナブルな地域社会をデザインできる能力を身につけます。

イノベーション×サステナビリティの学び
経営学分野「経営イノベーションコース」と社会学分野「地域サステナビリティコース」を横断する4つの専門領域を設定し、これらの学際的・複合的な学びを通してさまざまな角度から物事をとらえることのできる思考力と専門的な知識や能力を身につけます。

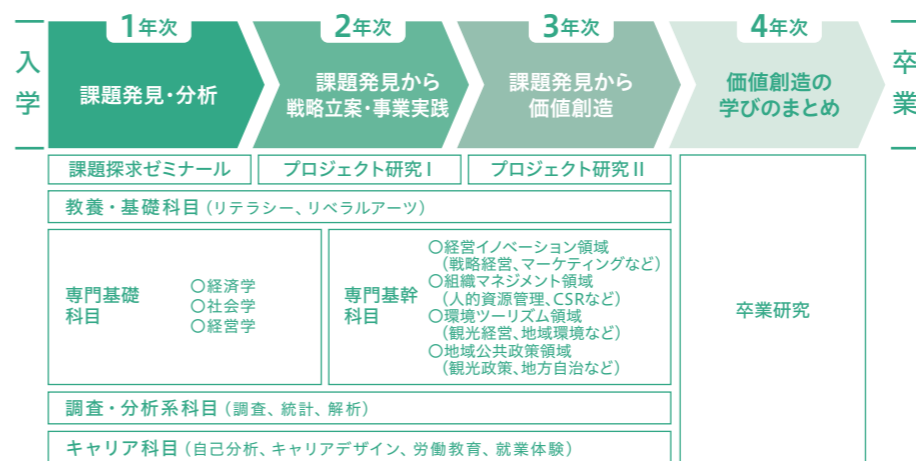
地域協働による価値創造の実践的な学び
地域の企業・組織との協働によるゼミナール教育を1年次から展開し、システム思考を通して地域の課題を多面的・総合的にとらえ、新たな価値を創造する実践的な学びを推進します。学びの成果は地域に還元し、地域にイノベーションを創出する能力を身につけます。

【経営イノベーションコースの価値創造の学びの例】
▶地域企業における企業独自の技術や地域資源の活用・創出による市場性の高い商品の開発

【地域サステナビリティコースの価値創造の学びの例】
▶地域資源を有効活用したエリア・リノベーションを通じた観光まちづくりモデルの提案と形成支援



カリキュラム体系 「ゼミナール教育を中心とした課題発見から価値創造までの学び」



卒業後の進路

経営イノベーションコース 金融/機械・電器/食品加工/製業/住宅・ゼネコン/情報サービス/出版・広告/商社/コンサルタント/社会的起業/公務員

地域サステナビリティコース 旅行・宿泊/交通/流通/宅配・物流/商社/食品加工/金融/環境NPO/自然学校/社会的起業/公務員

求める人材像 (アドミッションポリシー)

- 1 大学での複合的な学びの土台となる文章読解・作成を含む幅広い基礎学力を修得している。
- 2 探究学習や課外活動の中で地域や企業の実践家と積極的に交流・議論・提案を行う際に必要となる知識と論理的思考力を有している。
- 3 地域の課題をとらえ、自らの考えを他者に伝えるコミュニケーション能力を有している。
- 4 地域協働型の学習活動へ積極的に参加し、自ら地域の在り方を構想する意欲を有している。

